里山資本主義の道のり

地域づくりの視点からの森・バイオマス

人と人、人と自然、世代と世代、
をつなぐ 「バイオマス資源」

奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

世代を**つなぐ**仕組みをつくれないか？

地域が生き残るには、**世代の継続**が不可欠！

世代をつなぐものは、「**共感**」

共感を生み出すシステムとは？

「自治」とは何かを考えるきっかけ
「地域活性化」の現場での気づき

・産業の振興（生産性の高い林業・農業へのアプローチ・・・）

・工場誘致　　・施設建設（ショッピングモール、テーマパーク・・・）

・ブランド化（特用林産品、農産物、コメ、・・・）

・ネットショップの開設　　・グローバルマーケットへのアプローチ

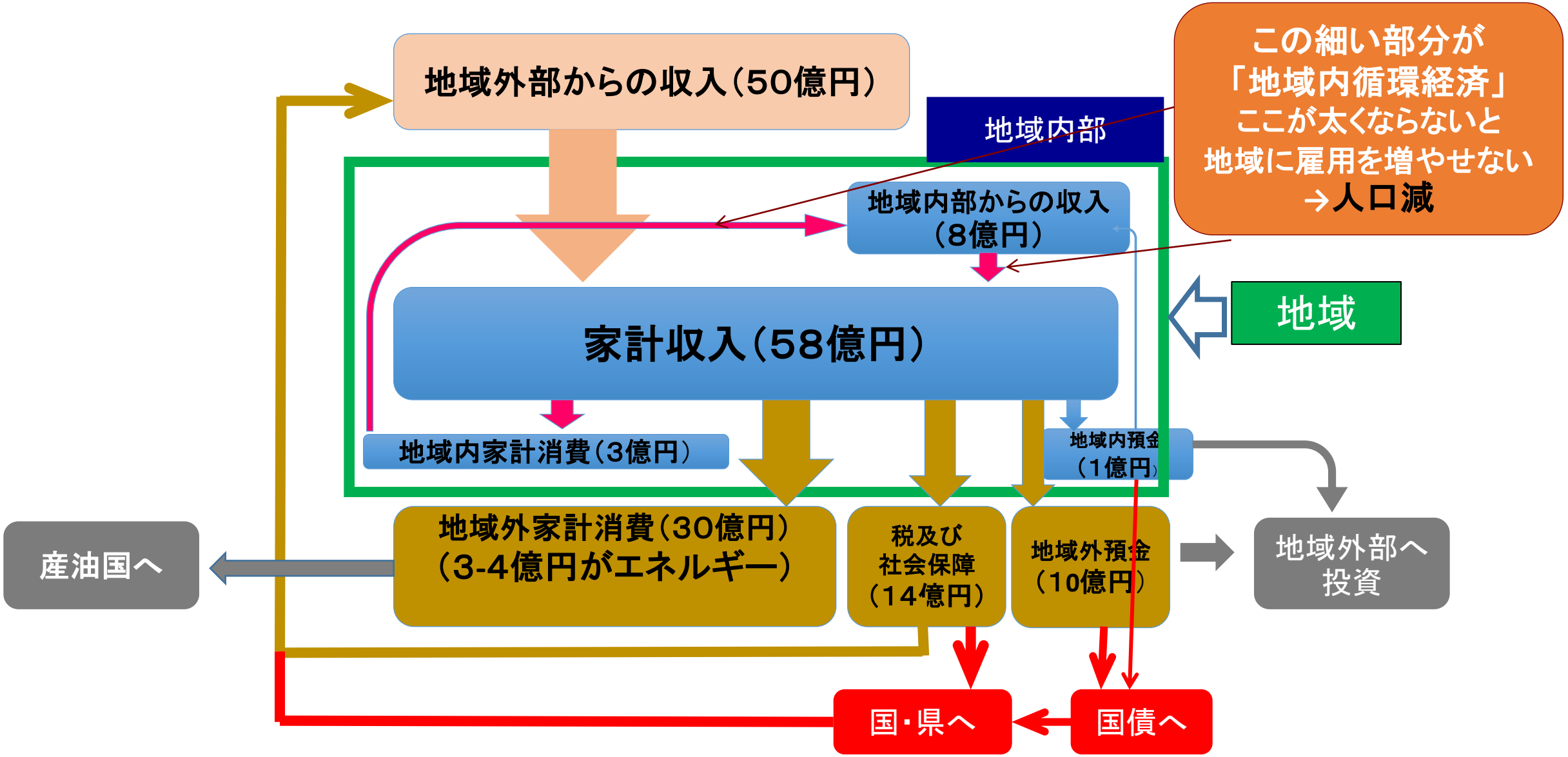
・仕事場づくり

・観光振興　　・ふるさと納税　　まだまだ、沢山のこと・・・

地域の成立ち

- **非経済的価値**（幸せの経済）
- **経済的価値**
  - **外部経済から**（儲けの経済）
  - **内部循環経済**（地域づくり）

平均的な中山間地域、3000人集落(豊田市旭地区)のお金の循環



◆地域内でのお金の循環は殆どない。

(総理府統計局消費動向データ)

結局、地域は都市のベッドタウンか？

その仕組みは、持続可能なのか？

生存の基盤（食料、エネルギー）は地域にあるのに・・・

地域とはどのようにして生きてきたか

地域の成立ち

- **非経済的価値**（幸せの経済・自給）
- **経済的価値**
  - **外部経済から**（儲けの経済）
  - **内部循環経済**（地域づくり）

非経済的価値(幸せの経済・共感・経済統計にあがらない)

- 食料・エネルギーの自給、採集、交換 （自分を養い、分け合う）
- 結、普請、共同作業 （草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き・・）
- 見守り、人と人のつながり、寄り合い
- 祭り （社会教育、人材の育成・確保）
- 水の共同管理、共有林（財産区）の管理
- 文化 （神楽、農村歌舞伎・・・）
- 自然、景観、風景
- 心の置き方（風習、風土、価値観）
- 郷土愛、誇り
- 先祖、神様、祖霊、山の神、庚申・・・

⇒ 関係性づくりの仕組み

共感の範囲（地域）、

個人の幸せ、を構成する重要な要素

地域の成立ち

- **非経済的価値**（幸せの経済）
- **経済的価値**
  - **外部経済から**（儲けの経済）
  - **内部循環経済**（地域づくり）

内部循環経済の拡大

地域内循環経済の構築

住民自治には**地域経営**という視点が必要、

外からお金を稼ぐだけでは、地域は豊かにならない。

地域内でお金を循環させる仕組みが、**不可欠！**

地域内循環経済の基礎　（60年前までは当たり前）

エネルギー、**食料**、**水**、**医療・福祉**、**教育**、**安全**、**公共工事**、**娯楽**、

などの、自治（地域経営）、自給

- **食料費**

地域商店の利用拡大、地域食材・食品の地産地消

地域通貨（木の駅と森券）　、　地域内米価（鳴子米）、

６次産業化（パンの消費は1万円/人、1000人で1千万円）

- **エネルギー費**

確実に、地域外へ（国外へ）出て行っているお金

新規事業のための、資金調達を考えるか、

出て行くお金を、地域内で循環させるか。（**里山資本主義**）

- **娯楽**

  カフェ、飲み屋、カラオケ、サロンなども、内部経済の重要な要素

- **地域木材の利用**

  1000人集落では住宅約300戸、100年に一度建て替えても、

  毎年約3戸の新築。その他、薪、チップ、ペレット・・・

  地域材で家を建てると、地域に大工（雇用）が育つ

- **医療費、福祉費**

  互助・共助・公助の確認

  医療と福祉の壁の撤廃（電子カルテ化）

  地域包括ケアー

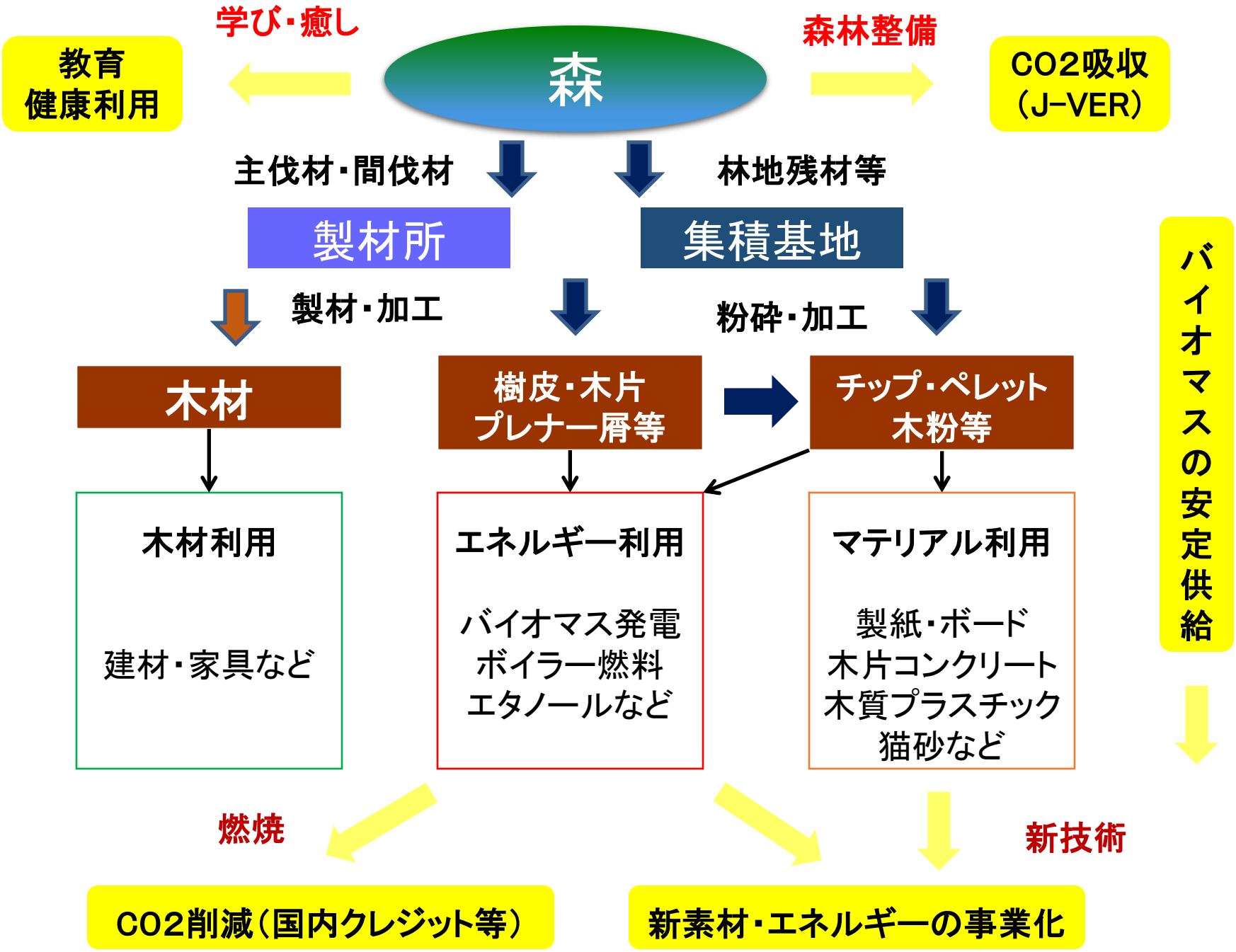
- **教育費**（高校で300万円、大学で1000万円）

  私塾の開設、廃校を学校に。若者の新たな価値観を育てる。

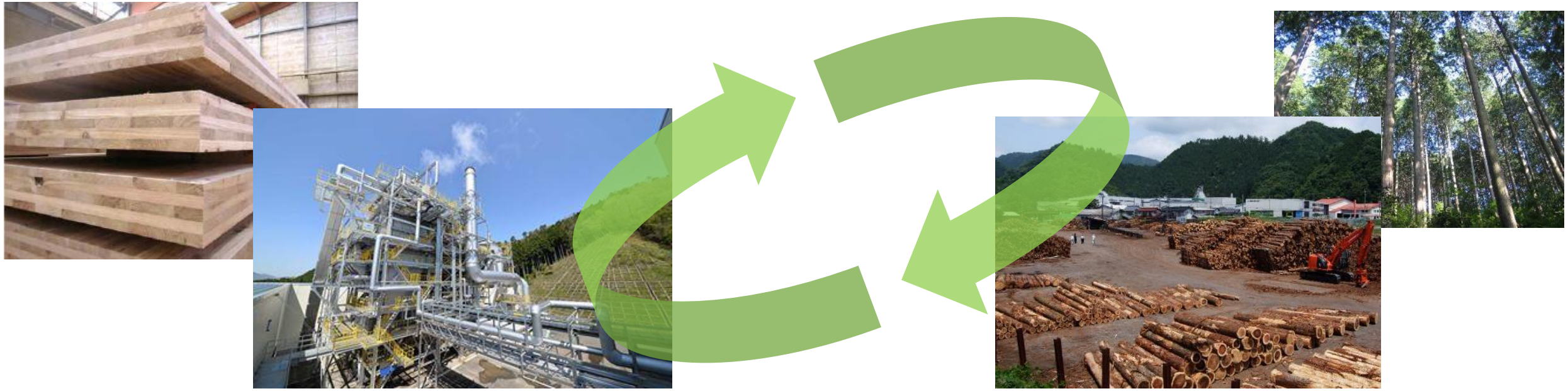
  人材の育成・・・遠回りだが、一番の早道

'03 4 30

山から町へ
集成材・建材
木質プラスチック
木片コンクリート
木質ペレット
ストーブ・ボイラー
などの燃料
森 林
木質バイオマス
木片・木粉
木炭・木炭
ネコ砂
ヒノキオイル
燃 料
アルコール
バイオマス発電
バイオマス


学び・癒し
教育
健康利用
森
森林整備
CO2吸収
（J-VER）
主伐材・間伐材
林地残材等
製材所
集積基地
製材・加工
粉砕・加工
木材
樹皮・木片
プレナー屑等
チップ・ペレット
木粉等
木材利用
建材・家具など
エネルギー利用
バイオマス発電
ボイラー燃料
エタノールなど
マテリアル利用
製紙・ボード
木片コンクリート
木質プラスチック
猫砂など
バイオマスの安定供給
燃焼
新技術
CO2削減（国内クレジット等）
新素材・エネルギーの事業化

里山資本主義－木材と木質バイオマスを活用した産業づくり－



◆地域内エネルギー**自給率85.8%**

（内、発電43.5%）

◆経済効果・市内バイオマス産業により、

産業生産額が **年間52億円増加**

・地域外購入→地域内生産消費

関係者の連携による、配送システム確立と
エネルギーの自給

・木質バイオマス活用→森林資源の見直し

林業の活性化と山村の再生

（3億円以上が山に）

木質バイオマスの学び

・ 木は、かさ張る、汚い、重い（煩わしい） → 地域内消費がベスト

・ ボイラー選定などの利用方法より → 収集・運搬システムが重要

（誰が、いつ、いくらで、どのように・・・地域で決める）

非経済的価値が、地域の価値を決めるベース

・ 地域内の連携が不可欠 →エネルギー・素材事業のように見えて、

内実は、地域づくり事業（関係性作り）

価値とは何か？　価格とはだれが決めるのか？

そもそもの「自治」とは、地域で価値を決めること

小さな里山資本主義

真庭市中和地区の取り組み （人口600人）

Gasifier

赤木　直人（あかぎ　なおと）

1979年生まれ、大阪出身。

学生時代は岡山で過ごし、大学を中退後、**雑貨専門店**に入社。

岡山店所属時に妻と知りあい、子供の誕生をきっかけに、

妻の出身地である、岡山県真庭市蒜山（ひるぜん）中和地域へと移住。

2015年5月、**薪の供給**と、

地域振興を目的とする

一般社団法人アシタカを設立。

現在の思い

真庭市に住んで７年目に、（一社）アシタカを設立しました。
それまで、住んでいる集落の事は分かっていましたが、
わずか人口６００人、２５０世帯の中和地域の事は、
全く分かっていませんでした。
立ち上げ当初、その人の顔と名前、そしてその家族の状況まで
わかる方は、１５世帯ほど。
１年たった現在、７０世帯ほどの方は分かるようになりました。
６５０人という小さなスケールだからこそできる事があります。
わかる事があります。
５年後には地域全員の顔が見れるようになりたいと願います。

地域にお金を留まらせるため、地域の温泉施設が灯油ボイラから

薪ボイラになりました。

それからすべてはスタートしていますが、

お金の地域内循環が大きな成果ではなく、

これをきっかけにたくさんの人が関り、そこに話題が生まれ、

昔のような協調する仕組み（自治・非経済的価値）ができた事、

これが一番の成果であると思います。

赤木　直人

無縁社会の本質

「無縁社会」　＝　関係性の遮断　＝他者への「無関心」「無視」

今だけ、お金だけ、自分だけ

愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、憎しみではなく「無関心」

（マザー・テレサ）

「愛」のきっかけは、「興味を持つ」こと！

人の愛は、その場、その時に伝わり、共感が生まれる。

そこに一緒にいる。五感六感を共有する。

人と人、人と自然、世代と世代が、

お互い、関心と共感を持ち合う社会が持続可能

「経験の共有が共感を作る」、そして「その共感が地域を守る」

「貧しい人とは、少ししか持っていない人のことではなく、もっともっとと、際限なく欲しがる人、いくらあっても満足しない人のことだ」　（ウルグアイ、ムヒカ大統領　2012　リオ+20）

環境問題の根源は、**都市**の**消費の形、豊かさの尺度**

欲望に歯止めがかからない。（自足のかたち）

際限なく欲しがるマーケットを育てることが、

経済活動の目的になる矛盾

「共感」は「もっともっと」に代われるか？

金融資本主義の次に来る価値基準

イチローの世代、大谷の世代

労働の意味の変化（戦後70年～現在）

「　GDPを向上させるための労働　」

（経済的価値のための労働）

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、**生産性**を上げることが不可避。

⬇

専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない.。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。　高度経済成長期の論理

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・　**関係性を価値とは認めない。**

（現在～これからの20年）

「　生きる意味を問う労働　」

（meaning　of life）

地に足がつき、　コミュニティの中で必要とされ、

自然の中で、その恵みを得ながら、必要最低限のモノを持つ暮らし。

多くの人と、世代がつながっている社会を実現する・・　関係性は重要

お金より共感や協働。　共感できなくても、共生（そのための、自治）。

Do　より　Be　が大切。　働くことは、生きること。

お互いが持つ弱みを許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「職業選択」ではなく「生き方づくり」

豊かになった国「日本」は、

幸せになったのか　!?

対極ではない都市と地域

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

地域の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒　環境・経済モデル　＋　生き方・働き方モデル

（ビジネスモデル、起業、環境保全）　（価値観づくり・人づくり）

経済的豊かさだけを求めない、「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考え、実践する。

地方創生は、経済創生ではなく社会創生・関係性修復

なりわい塾は「生き方」を見つめる場